



2019年5月15日

各 位

本社所在地 東京都新宿区北新宿二丁目 21 番 1 号
 会 社 名 RIZAP グループ株式会社
 代 表 者 代表取締役社長 瀬 戸 健
 コード番号 2928 札幌証券取引所アンビシャス
 問 合 せ 先 執行役員 経営企画本部長 鎌 谷 賢 之
 電 話 番 号 03-5337-1337
 U R L <https://www.rizapgroup.com/>

子会社における個別業績と通期業績予想もしくは前期実績値との差異及び

特別損失の発生に関するお知らせ

当社の上場子会社において、2019年3月期通期個別業績と通期業績予想もしくは前期実績値との差異及び特別損失が発生いたしましたのでお知らせいたします。なお、本件は本日、各子会社より開示済みの内容となります。

記

1. 堀田丸正株式会社の個別業績と前期実績値との差異

当社連結子会社である堀田丸正株式会社において、以下のとおり、2019年3月期個別業績と前期実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。

2019年3月期実績値（個別）と前期（2018年3月期）実績値との差異

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績（A） （2018年3月期）	百万円 6,354	百万円 38	百万円 81	円 銭 1.70
当期実績（B）	5,408	△454	△491	△8.73
差額（B－A）	△946	△492	△572	
増減率（%）	△14.9	-	-	

2. MRKホールディングス株式会社

同社が本日開示いたしました「通期連結業績予想と実績値との差異及び個別業績と前期実績との差異並びに特別損失（連結・個別）の計上に関するお知らせ」を添付いたします。本文中に2019年3月期個別業績と前期実績値の差異を記載しております。

3. SDエンターテイメント株式会社

同社が本日開示いたしました「連結業績予想と実績値との差異及び剰余金の配当（無配）に関するお知らせ」を添付いたします。本文中に2019年3月期個別業績と前期実績値の差異を記載しております。

4. 株式会社HAP i N S

同社が本日開示いたしました「通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」を添付いたします。なお、同社は単体での決算を行っております。

5. 夢展望株式会社

同社が本日開示いたしました「個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ」を添付いたします。

6. 株式会社ワンダーコーポレーション

同社が本日開示いたしました「特別損失の発生、業績予想の修正に関するお知らせ」を添付いたします。
本文中に2019年3月期個別業績と前期実績値の差異を記載しております。

以 上



2019年5月15日

各位

会社名 MRKホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 岩本 眞二
 (コード9980 東証第二部)
 問合せ先 取締役執行役員経営企画部長 中 研 悟
 (TEL 06-7655-5000)

通期連結業績予想と実績値との差異及び個別業績と前期実績との差異 並びに特別損失(連結・個別)の計上に関するお知らせ

2018年11月13日に公表した2019年3月期の連結業績予想及び前期個別実績と本日公表の実績(連結・個別)との差異並びに特別損失の計上について下記のとおりお知らせいたします。

記

I. 連結業績予想と実績値の差異について

1. 2019年3月期 連結業績予想数値と実績値との差異(2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	18,600	145	△110	△390	△3.85
実績値(B)	18,540	381	272	△1,856	△18.32
増減額(B-A)	△59	236	382	△1,466	△14.47
増減率(%)	△0.3	162.8	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	14,916	900	771	1,528	16.05

2. 差異が生じた理由

2019年3月期、当社グループは、女性の皆様が輝く人生を過ごしていただけるよう“美”に関する多様なサービスを提供する『美の総合総社』の実現に向け、新たに中期経営方針として『Maruko Avenir Project 2020』(『MAP2020』 ※Avenir=未来、当社グループの未来に向けた体制の確立)を掲げ、より多くのお客様に、より便利で安心していただける環境で、より多くの魅力的な製商品・サービスをご提供させていただける体制を構築するために、積極的な投資を行ってまいりました。

このような状況の中、補整下着の販売を中心に展開するマルコ(株)において、主力製品シリーズ『Curvaceous(カーヴィシヤス)』の生産遅延が当第2四半期累計期間において発生し、販売機会の喪失とその対応策として実施した旧シリーズ製品の値引き施策等により一時的に営業損失を計上いたしました。当第3四半期以降、『カーヴィシヤス』の生産体制が整うとともに、以下の期初より継続的に実施した諸施策が奏功し、新規来店者数の増加と成約率の向上(前期47.2%から当期53.3%)による新規顧客数の増加、コスメやサプリメントなど商品拡充によるリピート購入件数の増加など集客効率を高めながら年間購入顧客数を伸ばしました結果、売上高及び売上総利益ともに順調に推移いたしました。

さらに、徹底した経費の見直しを推進した結果、下半期としては決算期変更(2013年3月期)後、最高の営業利益を達成し、上記のとおり営業利益及び経常利益が予想を上回りました。

なお、売上高が予想を下回っている要因は、マルコ(株)においては、順調に推移したものの、(株)エンジェリーベにおいて出産後の内祝いを中心としたギフト販売が予想を下回って推移したことによるものです。

＜マルコ(株)における顧客数の拡大に向けた主な取り組み＞

- ① 当上半期に新たなテレビ CM の投入など積極的に実施したプロモーション施策により、下半期に集客効率が高まり、順調に新規購入、リピート購入ともに順調に推移。
- ② 新規出店（10店舗）及び既存店リニューアル（※22店舗）によるお客様の利便性向上。
※上記の既存店リニューアルの店舗数には、統合3店舗を含んでおります。
- ③ 店舗の販売社員（ボディスタイリスト）の積極採用（採用者数：285名）と教育の徹底による接客力向上。
- ④ コスメ、サプリメントなど美容・健康関連商品及び『Hip Up Pants（ヒップアップパンツ）』など、顧客ニーズを捉えた商品の拡充。

（ご参考：マルコの店舗における販売状況）

■年間購入者数の推移

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
年間購入者数	56,796名	61,505名	68,798名
対前期比	92.1%	108.3%	111.9%

※上記年間購入者数は、ネット販売を除く、マルコの店舗にてご購入いただいたお客様のユニークユーザー数です。

■新規顧客数の推移

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
新規顧客数	12,920名	15,503名	19,404名
対前期比	95.5%	120.0%	125.2%

※上記新規顧客数は、ネット販売を除く、マルコの店舗にて新規ご購入いただいたお客様の数です。

■リピート購入件数の推移

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
リピート購入件数	172,677件	208,157件	256,347件
対前期比	87.9%	120.5%	123.2%

※上記リピート購入件数は、ネット販売を除くマルコの店舗にてリピートご購入いただいた件数です。

一方、親会社に帰属する当期純利益は、後述の「Ⅲ.特別損失（連結・個別）の計上について 1. 特別損失の内容」に記載のとおり投資有価証券評価損及びのれんの減損処理による特別損失を計上したことより、上記のとおり予想を下回りました。

II. 個別業績の前期実績との差異について

1. 2019年3月期 個別業績と前期実績値との差異（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A)	14,622	877	748	1,505	15.81
実績値 (B)	8,460	△172	△279	△2,184	△21.57
増減額 (B-A)	△6,162	△1,050	△1,028	△3,690	△37.38
増減率 (%)	△42.1	—	—	—	—

2. 差異が生じた理由

当社は、持株会社体制への移行に伴い、2018年10月1日付で「MRKホールディングス株式会社」に商号を変更しております。また、当社を吸収分割会社とする吸収分割により、当社の体型補整用婦人下着の販売及びその関連事業を、100%出資の子会社である「マルコ株式会社(2018年10月1日付で「マルコ分割準備株式会社」から商号変更)」に承継したため、前事業年度の実績値と当事業年度の実績値との間に差異が生じております。また、後述の「Ⅲ.特別損失(連結・個別)の計上について 1. 特別損失の内容 (1) 投資有価証券の評価損」に記載のとおり、保有する投資有価証券の評価損を特別損失に計上したことによるものであります。

Ⅲ.特別損失(連結・個別)の計上について

1. 特別損失の内容

(1) 投資有価証券の評価損

保有するRIZAP(株)の株式につきまして、同社はボディメイク事業を中心に着実に成長しているものの、同社の親会社であるRIZAPグループ(株)の構造改革に伴う2019年3月期連結業績の一時的な悪化及びRIZAPグループ(株)が推進する中核子会社10社を中心としたグループ企業の再編・集約等による同社への影響等を鑑み、保守的に同社株式の評価を見直いたしました結果、同社株式の評価損13億6百万円を特別損失として連結業績及び個別業績において計上いたしました。

(2) のれんの減損損失

当社連結子会社である(株)エンジェリーベにおいて、主力事業であるマタニティ・ベビー関連部門は順調に成長しているものの、新たな収益基盤を構築すべく、出産後の内祝いギフト市場の開拓を目指し、全国の産婦人科へのギフトカタログ(紙媒体)の発行・配布ルートを構築するなど、顧客獲得、事業規模の拡大に取り組んでまいりましたが、計画を下回って推移し、当期(2019年3月期)業績の悪化の主な要因となりました。このような状況を踏まえ、同事業の大幅な見直しを実施するとともに、(株)エンジェリーベの株式取得に係るのれんを保守的に見直いたしました結果、同のれんの減損処理により3億17百万円を特別損失として連結業績において計上いたしました。

なお、同社の収益構造改革は着実に進捗しており、次期(2020年3月期)においては利益貢献を見込んでおります。

2. 業績に与える影響

当該特別損失につきましては、本日公表の「2019年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」及び上記の「Ⅰ. 連結業績予想と実績値の差異について」「Ⅱ. 個別業績の前期実績との差異について」に反映しております。

以 上



2019年5月15日

各 位

会 社 名 SDエンターテイメント株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 吉住 実
(JASDAQ コード 4650)
問 合 せ 先 経営管理部長 佐藤 美幸
電 話 番 号 011-860-2525
U R L <http://sdentertainment.jp/>

連結業績予想と実績値との差異及び剰余金の配当(無配)に関するお知らせ

当社は、本日公表しました2019年3月期の連結業績につきまして、2018年5月14日に公表しました2019年3月期(2018年4月1日～2019年3月31日)の通期業績予想との差異が下記のとおり生じたのでお知らせいたします。

並びに当社は、本日開催の取締役会において、2019年3月31日を基準日とする剰余金の配当について、無配とすることを決議しましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

2019年3月期連結業績予想と実績値の差異(2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,700	260	120	100	11.16
実 績(B)	7,038	△204	△324	△190	△21.29
増減額(B-A)	△1,662	△464	△444	△290	
増減率(%)	△19.1	△178.5	△370.0	△290.0	
(ご参考)前期実績 (2018年3月期)	7,940	68	△73	20	2.32

差異理由

当期の業績については、2018年11月30日付「株式会社スガイディノスの株式譲渡契約の締結及びそれに伴う子会社の異動に関するお知らせ」に記載のとおり、当社が運営するエンターテイメント事業を会社分割により新設会社(株式会社スガイディノス)に承継させ、その全株式を北海道でのエンターテイメント事業を積極的に推進する方針の北海道SOキャピタル株式会社の資本傘下であるスガイディノスホールディングス株式会社へ譲渡しております。また、当

社は2018年12月26日付「固定資産譲渡及び特別利益計上に関するお知らせ」に記載のとおり、ディノス札幌中央ビルを譲渡しております。

売上高については、フィットネスを含むウェルネス事業についてはほぼ予定通りに推移いたしましたが、2018年9月に発生した「平成30年北海道胆振東部地震」による影響や事業譲渡したエンターテイメント事業の収入減及び自社不動産売却による収入減などにより、売上高が16億62百万円下回りました。

営業利益・経常利益については、上記のとおり売上高が減少したことによる影響に加え、2019年4月以降予定の保育園開園費用及び株主優待関連費用引当金計上、フィットネス優良店舗の大型修繕前倒し実施等による販売費及び一般管理費が1億円増加したことなどにより、営業損失・経常損失となり、営業利益が4億64百万円、経常利益が4億44百万円下回りました。

加えて、事業譲渡による特別利益9億88百万円やディノス札幌中央ビルの譲渡益12億30百万円がありましたが、短期的には痛みを伴うものの、次年度以降の収益改善を目的とする構造改革や事業再編等を積極的に実施したことにより、本日公表しました「特別損失の計上に関するお知らせ」のとおり、不採算店舗の閉鎖等に伴う閉店損失や店舗資産の減損損失等による特別損失を第4四半期連結会計期間で13億72百万円、通期合計で17億64百万円の特別損失を計上しました。

それらの結果、税金等調整前当期純利益は2億4百万円となりましたが、法人税・住民税及び事業税が3億99百万円発生したため、親会社株主に帰属する当期純利益については2億90百万円下回りました。

2. 業績の差異

2019年3月期通期個別業績と前期実績値の差異(2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A)	7,032	10	△115	△137	△15.68
実績(B)	5,744	△238	△351	△216	△21.21
増減額(B-A)	△1,287	△248	△235	△79	
増減率(%)	△18.3	△2,333.9	△370.0	△290.0	

差異理由

個別業績の売上高・営業利益・経常利益・当期純利益の差異につきましては、上記1同様の理由から前期実績を下回りました。

3. 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (2018年5月14日公表)	前期実績 (2018年3月期)
基準日	2019年3月31日	同左	2018年3月31日
1株当たり配当金	0円00銭	3円40銭	1円00銭
配当金総額	—	—	8,954千円
効力発生日	—	—	2018年6月29日
配当原資	—	—	資本剰余金

修正理由

当社グループは、株主への利益還元を重要な経営課題の一つと位置づけており、機動的な利益還元と、経営財務の安定性確保の観点から、当期純利益の水準に応じた業績連動型配当の実施を基本方針とし、配当性向 10%～50% 目処とすることを基本方針とすることにしております。

当期の期末配当金につきましては、連結業績予想に基づいた連結配当性向 30% を目安に 3円 40 銭を予想しておりましたが、親会社株主に帰属する当期純利益が 1 億 90 百万円の純損失となったことを受け、当社が今なすべきことは内部留保の充実を図り企業体力の増強を図ることであると経営判断し、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、早期に復配できるよう努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(ご参考) 年間配当の内訳

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	合計
当期実績	0円00銭	0円00銭	0円00銭
前期実績 (2018年3月期)	0円00銭	1円00銭	1円00銭

以上



2019年5月15日

各位

本社所在地 東京都品川区西五反田七丁目 22 番 17 号
 会社名 株式会社HAPiNS
 代表者 代表取締役社長 柘植 圭介
 問合せ先 取締役管理部長 塩塚 哲也
 コード番号 7577
 電話番号 (03) 3494-4497
 U R L <http://www.hapins.co.jp/>

通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2018年11月13日に公表いたしました2019年3月期(2018年4月1日～2019年3月31日)の業績予想と実績値に差異が生じたので下記のとおりお知らせします。

記

1. 2019年3月期業績予想と実績値との差異 (2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り 当期純利益
前回予想 (A)	9,800 百万円	210 百万円	140 百万円	4 百万円	0.27 円
実績 (B)	9,706 百万円	133 百万円	64 百万円	△57 百万円	△3.89 円
増減額 (B-A)	△93 百万円	△76 百万円	△75 百万円	△61 百万円	—
増減率 (%)	△1.0	△36.5	△53.8	—	—
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	8,778 百万円	151 百万円	127 百万円	29 百万円	1.99 円

2. 差異が生じた理由

当事業年度におきましては、既存店の売上高が低調に推移したことと6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月の台風多発と自然災害が集客に影響したため、売上計画を下回っておりました。そのため、第4四半期会計期間につきましては、滞留在庫商品等の処分を含め、セール期の値下げ販売を強化したことにより売上高前年比 120.8%と大きく売上高を伸ばしました。しかし利益面につきましては、1月から2月のセール期に加え、3月も値下げ販売を継続したことにより、売上総利益率が前期比-6.6%と大きく悪化しました。その結果、営業利益・経常利益・当期純利益が予想を下回ることとなりました。

2020年3月期につきましては、売上総利益額の向上施策として、店舗取扱い商品数を絞り込むことで戦略商品の販売促進を集中し強化してまいります。商品面では原価率の低減及び値下げ商品の削減をすることで利益を確保してまいります。

2019年5月15日

各 位

会 社 名 夢 展 望 株 式 会 社
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 濱 中 眞 紀 夫
 (コード：3185 東証マザーズ)
 問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 田 上 昌 義
 (TEL. 072-761-9293)

個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

2019年3月期(2018年4月1日～2019年3月31日)の個別業績と前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2019年3月期通期個別業績と前期実績値との差異

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A) 2018年3月期	3,258	156	153	円 銭 14.46
当期実績(B) 2019年3月期	3,242	△233	△282	△24.96
増減額(B-A)	△16	△390	△436	—
増減率(%)	△0.5	—	—	—

※本記載の当期実績は、この開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続きが実施中です。

※本記載数値情報は、表示単位未満の端数切捨て、増減率の小数点以下第2位切捨て小数点第1位まで記載しております。

2. 差異の理由

主たる要因として、コンサルティング事業の進捗遅延による減収減益であり、経常利益及び当期純利益が前期を下回る結果となりましたが、アパレル事業の売上高が前期を上回ったことにより、売上高は前期水準を維持することができました。

コンサルティング事業につきまして、親会社であるRIZAPグループ株式会社その他、RIZAPグループ株式会社の関係会社4社が現時点までに参画予定となっており、2020年3月期の第2四半期には、現在開発中のECプラットフォームが完成し、参画各社が順次開店することにより収益に貢献できるものと考えております。

以 上



2019年5月15日

各 位

会 社 名 株式会社ワンダーコーポレーション
代表者名 代表取締役会長兼社長 内藤 雅義
(JASDAQ・コード番号: 3344)
問合せ先 取締役管理本部長 宮本 正明
(TEL: 029-853-1313)

特別損失の発生、業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2019年3月期決算において特別損失（構造改革関連費用及び減損損失）を計上する見込みとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、2018年11月14日に公表しました2019年3月期（2018年3月1日～2019年3月31日）の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失（構造改革関連費用及び減損損失）の計上

当社は、前年3月よりRIZAPグループ株式会社の連結子会社となり、グループの様々な商材やサービスを活かした「高収益ハイブリッド型店舗」への転換を進めており、これまでの事業構造からの転換を果たすべく、既存店舗の改装を中心に様々な取り組みをしてまいりました。

しかしながら、エンタメ市場全体における市場縮小が数年来継続しており、RIZAPグループ全体の構造改革の方針が策定されたことを受け、2019年3月期決算において「構造改革関連費用」を特別損失として約3,900百万円計上する旨、2018年11月14日の「特別損失の発生、業績予想の修正に関するお知らせ」において開示し、その内容に基づき第3四半期決算において特別損失3,369百万円を計上いたしました。

この第3四半期における「構造改革関連費用」の内訳といたしましては、商品評価損等の計上が主でありましたが、第4四半期において、不採算事業・店舗からの撤退に関連する費用を主とする内容として1,486百万円を追加の特別損失として計上するものであります。

この度の、不採算事業・店舗からの撤退に関連する費用等につきましては、RIZAPグループ全体の構造改革の方針に基づき、当社グループの事業・店舗関連資産等を将来の投資回収可能性を勘案した上で、特別損失としての費用処理をしており、主にWonderG00事業において653百万円、WonderREX事業において331百万円、新星堂事業において161百万円、TSUTAYA事業において186百万円、その他155百万円を計上しております。

以上のとおり、当社の収益構造改革を早期に進めることが当社の経営再建に不可欠であることから、2019年3月期決算において構造改革関連費用として特別損失4,855百万円を計上することといたしました。

なお、この他に「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく固定資産の投資回収可能性を検討した結果、転貸物件や店舗等において34件を対象とする減損損失695百万円を計上しております。

2. 連結業績予想の修正について

2019年3月期通期連結業績予想数値（2018年3月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	百万円 76,530	百万円 790	百万円 740	百万円 △3,230	円 銭 △427.29
今回予想 (B)	72,117	453	451	△5,159	△695.84
増減額 (B-A)	△4,413	△337	△289	△1,929	—
増 減 率 (%)	△5.8	△43.0	△39.2	—	—
(ご参考) 前期実績 (2018年2月期)	73,139	481	475	△448	△80.33

※前期実績に対し今期は13ヶ月の変則事業年度となります。

3. 個別業績予想及び前期実績との差異について

2019年3月期通期個別業績予想数値（2018年3月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 57,787	百万円 286	百万円 304	百万円 △448	円 銭 △80.40
今回予想 (B)	56,323	336	320	△4,714	△635.84
増減額 (B-A)	△1,464	50	16	△4,266	—
増 減 率 (%)	△2.6	—	—	—	—

※前期実績に対し今期は13ヶ月の変則事業年度となります。

4. 修正の理由

(1) 連結業績

2019年3月期の連結業績予想につきましては、利益面においてWonderG00事業の年末商戦における売上増に伴う利益増や、新星堂事業での不採算店舗閉鎖に伴う利益改善、WonderREX事業の店舗出店による売上伸長等により前年対比で一定の改善が見られたものの、新規事業であるフィットネス事業の第4四半期におけるFC加盟店数が当初想定分を大きく下回ったことや、エンタメ市場全体の縮小に伴うWonderG00事業でのゲームソフトや書籍、音楽ソフトの売上高の減少及び粗利高の減少により、売上高、営業利益、経常利益の予想数値を下方修正し、親会社株主に帰属する当期純利益については、上記の構造改革関連費用として特別損失が発生することにより予想を下回る見通しとなりましたので、2019年3月期の連結業績予想を修正するものであります。

なお、特別損失として発生する構造改革関連費用4,855百万円につきましては、親会社のRIZAPグループ(株)では国際財務報告基準を採用しているため、営業利益段階にて計上されます。

(2) 個別業績

2019年3月期の個別業績予想につきましては、上記の「1. 特別損失（構造改革関連費用）の計上」にありますように、エンタメ市場全体における市場縮小が数年来継続しており、RIZAPグループ全体の構造改革の方針が策定されたことを受け、2019年3月期の個別決算において「構造改革関連費用」を特別損失として4,266百万円計上いたしました。なお転貸物件や店舗等において27件を対象とする減損損失607百万円を計上いたしました。

これにより前期実績の親会社株主に帰属する当期純利益に対し、2019年3月期決算の親会社株主に帰属する当期純利益が大きく減少する見通しです。

(注)本業績予想については、現時点で入手可能な情報及び合理的と考える一定の前提に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

以 上